

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都荒川区南千住 8 - 2 - 1
園名	荒川区立南千住第二幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

本園の地域及び園庭は自然が充実し、植栽も豊かである。一方で園児の立ち入らない場所や使用していない箇所がある。工夫を図り、より一層自然への興味関心を高めたい。

2. 活動スケジュール

- 10月25日 東白鬚公園に行き、秋の自然物を採取する
- 10月28日 採取してきたものを集め、観察する
- 11月18日 採取してきたものを使ってリースを作る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】

- ・秋の自然物(クヌギ・シラカシ・スダジイ・マテバシイ・ピラカンサ・センダングサ・ススキなど)
- ・自然物を分けて入れるための入れ物
- ・タブレット端末・デジタル顕微鏡

【環境の構成】

- ・幼児が採取したものを1か所に集められるようにし、量や種類から自然物に興味をもてるようにする。
- ・デジタル顕微鏡を設定し、じっくり見るなど、見え方の違いを楽しめるようにする。
- ・実の名前が知りたい幼児には、タブレット端末で検索できるようにする。

4．探究活動の実践

<活動の内容>

年中組「あきにふれよう」

- ・遠足で採取してきた自然物に触れる
- ・自然物を分別する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

- ・遠足で採取してきた自然物を 1 か所にまとめておくと、はさみを使ってドングリを割ろうとする幼児がいた。(オシロイバナの種を割って中身を見た経験からと推測する。) 割りたいという気持ちに沿い、踏んでみるが割れない。教師がトンカチとペンチを持ってきて試してみるが、割れない。再びドングリを踏むとひびが入り、それからトンカチやペンチを使うと割れた。どうしたらドングリが割れるかを繰り返し試し始めた。力を入れるためにテラスで助走をつけて踏んでもいた。助走する距離を何度も変えて試していた。
- ・デジタル顕微鏡を設定すると、見てみたい実をもってきてはデジタル顕微鏡で覗いていた。スダジイを見ると殻の形から「バナナ?とうもろこし?」と言ったり、殻の模様から、「波みたい。ザブーン。」と言ったりしている子がいた。
- ・割ったドングリをもってきてデジタル顕微鏡を覗く。「虫めがねより見える」とのこと。
- ・デジタル顕微鏡を気に入った幼児がいた。「木を見てみよう」「次は何見ようかな?」など、次から次へと採取した自然物を持ってきては覗いていた。センダングサを覗き、「くつつくやつ、とげとげある。」花を見て「きれいだね。黄色い花。」「種みたいの見える」と発見していた。
- ・「この赤い実は何?」と教師に聞く幼児がいた。教師がタブレット端末で調べると、ピラカンサであることが分かった。実のところに(教師に書いてもらい)「ピラカンサ」の表示をつける。
- ・昼食後、自然物を分別する様子が見られた。分別をすると、他の種類が混ざることがないように気にする幼児がいた。



5 . 振り返り

< 振り返りによって得た先生の気づき >

- ・ 自然物への幼児の関わり方が、予想外のものであった。
- ・ 幼児の行動や活動を「探究」といういつもと違う視点で見ること、見方が広がる。